



東久留米の近代史シリーズ5

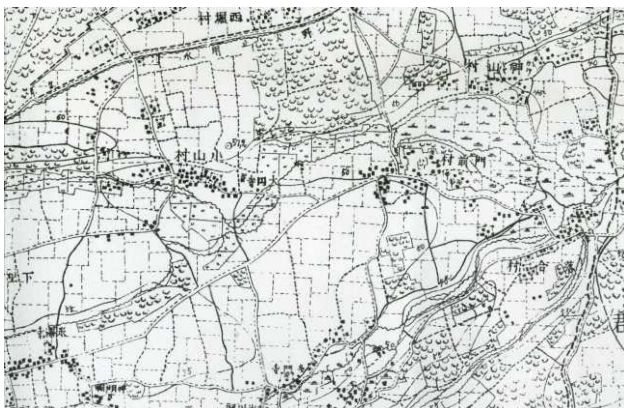
武蔵野鉄道東久留米駅 (5)

東久留米駅の誕生・3

武蔵野鉄道の久留米村内の敷設については、かなり難工事であったようです。それは久留米村の独特な地形に起因していました。久留米村は日本最大の扇状地を基盤とした武蔵野台地のほぼ中央部に位置し、その地形は一見平坦のようにみえますが、黒目川とその支流である落合川や立野川が東西に流れて黒目川水系源流部を形成しており、北の黒目川水系北段丘崖と南の立野川段丘崖（黒目川水系南段丘崖）の間は河成低地と微高地が東西に広がり、変化に富んだ地形となっているのが特徴です。その水系源流部を直角に貫通するように鉄道が敷設されたため、三ヶ所の橋梁の架設や段丘崖や低地部の複雑な掘削と盛土の工事が必要でした。

武蔵野鉄道の路線は、東久留米駅の位置的な関係から、旧保谷村から旧久留米村に入る地点でやや北向きに進路を変えて立野川を直角に超えるため、立野川南側の崖線手前の土手状微高地は掘削しています。そして、落合川からほぼ現況地盤に近い駅の手前までの河川流域の低地部は盛土で造成しています。さらに、東久留米駅から北の黒目川水系北段丘崖までの低地部分には高い築堤を造って黒目川橋梁を架設し、そのまま急峻な段丘崖にほぼ直角に線路を延ばして小山の「子の神社」東側の崖を深く掘削しながら北に軌道を進めています。その際、掘削部分の残土はトラックで崖下の盛土部分に運んで築堤工事を進めたといわれています。

久留米村内では、南側から「掘削」→立野川橋梁→落合川橋梁→「盛土」→東久留米駅→「盛土」→黒目川橋梁→「盛土」→「掘削」という複雑な工程を伴う工事となりました。



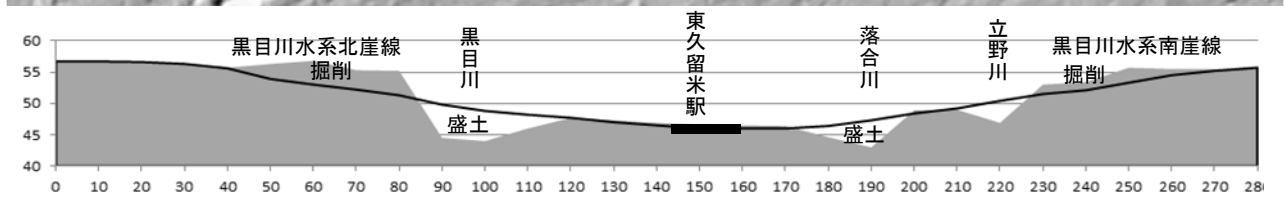
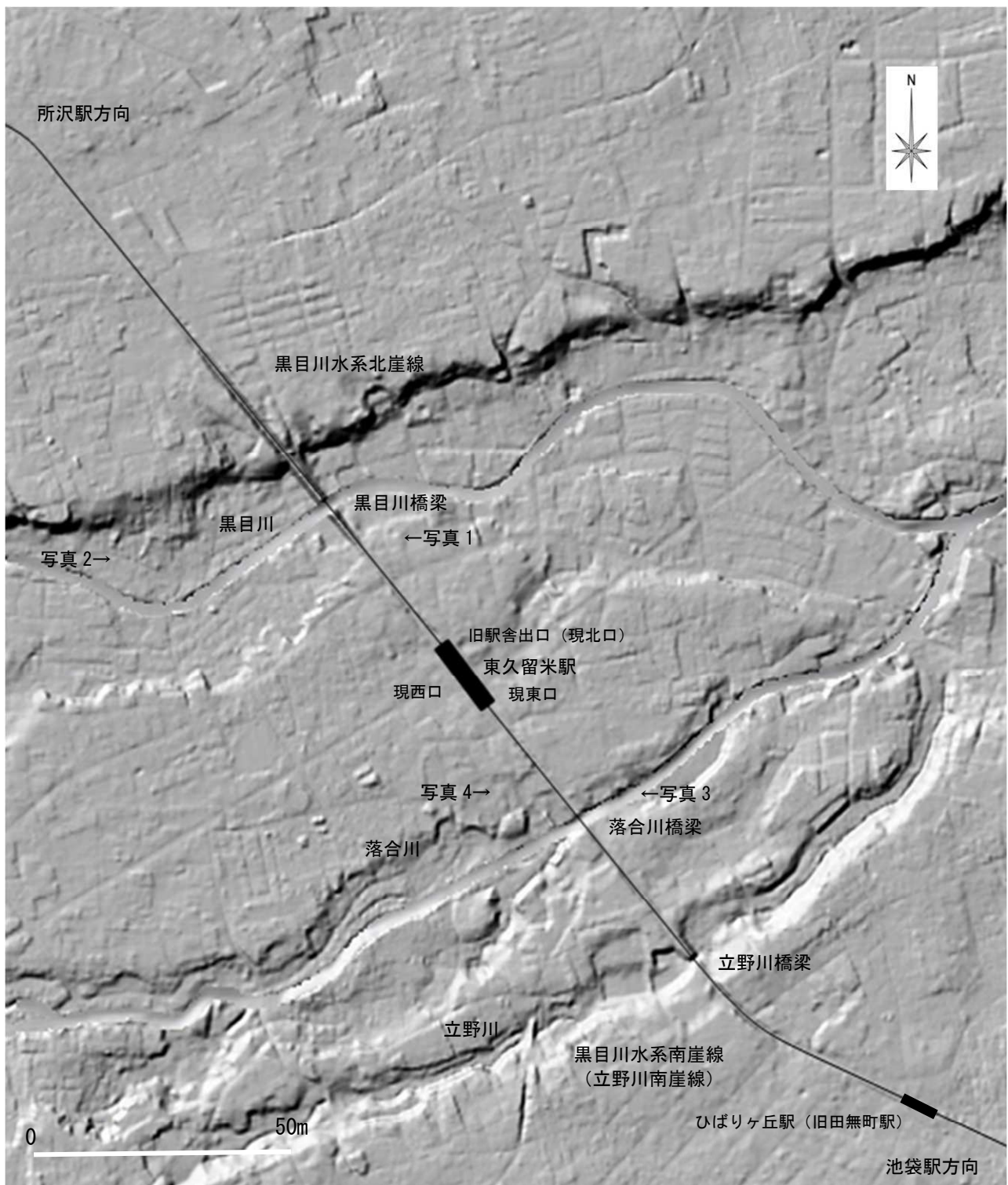
武蔵野鉄道敷設前

3 万分の 1 地形図「田無町」部分・明治 16 年測量・明治 19 年発行・大日本帝国陸地測量部・国土地理院



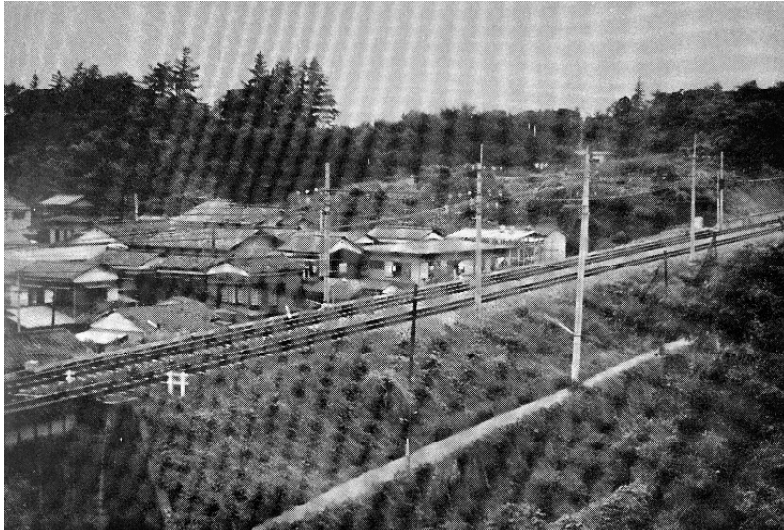
武蔵野鉄道敷設後

2 万 5 千分の 1 地形図「志木」部分・大正 6 年測量・大正 8 年 12 月発行・大日本帝国陸地測量部・国土地理院



武蔵野鉄道（西武池袋線）東久留米駅と周辺地形

武蔵野鉄道は黒目川水系（黒目川・落合川・立野川）を横断するように敷設され、東久留米駅は水系のほぼ中央にある平坦部（黒目川開析谷と落合川開析谷の間の微高地）に作られました。地形図は国土地理院デジタル標高地形図陰影起伏図・文字追加、地形断面及び鉄道路線の模式図は国土地理院標高地図データを参考に山崎作成 2023. 5。



東久留米駅周辺の状況

写真はすべて1953年（昭和28年）の田無町駅～清瀬駅間の複線化後のもの。単線時の線路は西側（左・下り線）で、その東側に新しい上り線を敷設しました。写真は現橋梁の改修以前のもので、下り線には単線時のレンガ積み橋台が使用されています。現在、黒目川と落合川の橋梁は改修されましたが、立野川橋梁には単線時のレンガ積み橋台が今も残されています。

写真1 黒目川旧橋梁付近の築堤と黒目川水系北段丘崖

1970年（昭和45年）撮影
左端が黒目川旧橋梁（複線化後）。右端が黒目川段丘崖を掘削した部分。（『小山台遺跡』1971・久留米中学校刊より）



写真2 黒目川旧橋梁と周辺の築堤

1960年（昭和35年）撮影

黒目川旧橋梁上をすれ違う電車と貨車。黒目川の河成低地部に盛土された築堤で、左が黒目川段丘崖、右が駅方向。

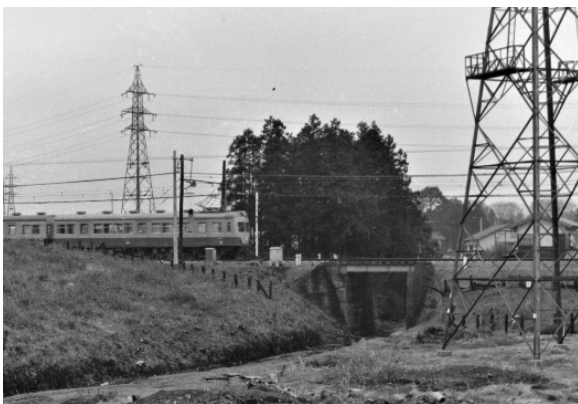


写真3 落合川旧橋梁

1972年（昭和47年）撮影

左は落合川段丘崖、右（北）は氾濫原の築堤。



写真4 落合川旧橋梁から駅手前までの築堤

1972年（昭和47年）撮影

文責・山崎 丈（東久留米市文化財保護審議会委員）

夏の昆虫展



過去の展示様子

昆虫研究家の北原俊幸氏（市文化財保護審議会委員）から市へ寄贈された昆虫標本を展示します。今年は、「残っている自然に目を向けよう」をテーマに、環境の変化により東京近郊で出会うことが少なくなった昆虫を展示します。

開催期間：7月21日（金）～8月31日（木）

午前9時～午後4時30分（期間中は土曜日開室・日曜祝日休室）

8月8日（火）～10日（木）は北原氏による展示解説を行います（午前10時～、午後3時～・各回先着15名）。

今年は、図書館でも関連図書の展示を行います。

【展示】写真でみる東久留米のむかしと今

東京郊外の農村地帯であった東久留米は、昭和30年代を境として大きく変貌し、市制施行の昭和45年頃には住宅都市の景観が整ってきました。そして、市制施行から50年以上経過し、昔の面影を残す場所はほとんどなくなってしまいました。

郷土資料室で保管する昭和20～40年代の写真と同じ場所で写真撮影を行い、東久留米の昔と今を並べてみました。昔を懐かしんだり、今住んでいるところは昔こんなところだったんだ！と驚いたり、東久留米の遷り変わりを感じてください。

昔の東久留米の写真をお持ちの方、郷土資料室へご連絡ください。



『光の交響詩－写真でつづるふるさと東久留米－』も好評販売中（1冊1,300円）

東久留米市歴史ライブラリー4『東久留米の近代歴史文書』刊行



東久留米市歴史ライブラリーは、個々の歴史や文化財に焦点を当て、テーマごとにより深く掘り下げたシリーズです。今回刊行する『東久留米の近代歴史文書－近代行政文書を中心として・明治時代編－』は、東久留米市郷土資料室が保管する行政関連文書を調査・整理した成果について、明治時代の文書を中心にまとめたものです。著者は市文化財保護審議会副会長の山崎丈氏（A4判、100頁）。

7月3日（月）から、生活文化課（市役所2階）と郷土資料室で頒布します（1冊1,000円）。同日から、市内図書館でも閲覧できます。

編集・発行

東久留米市郷土資料室（東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係）

203-0033 東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内
電話 042-472-0051 無断転載はしないでください